



月2回刊=1600号  
2022年4月30日 発行  
発行日 毎月15日30日  
発行所  
盛岡市内丸10番1号  
岩手県庁内  
岩手県職員労働組合  
印刷所  
盛岡市上田二丁目17-4  
有限会社 ジョー印刷企画  
一部 40円  
組合員購読料は組合費に含む

新採用職員・本部主催組合ガイダンス

組合で一緒に変えて行こう

青婦部から必要性を伝える



▲4月6日に行われた組合ガイダンスの様子

県職労青年婦人部は4月、当局主催の新採用研修期間中の昼時間(一期と二期・計4日間)を活用した組合ガイダンスを開催。知事部局136人中およそ6割83人が参加。DVD視聴、先輩からの一言、開催時間をずらし交流の時間を確保するなどし、新採用職員に組合の必要性を伝え加入を促した。



ガイダンス前半の5日、6日は加入促進DVDを上映したのち組合概要説明にて組合費の内訳や何に使われているのかを説明。参加した青年婦人部員から「コ



▲新採用に向け組合の良さについて説明する青年婦人部員

ロナ禍で他の職場の人と交流したくてもできない状況が続いている中で組合では学習会や交流会といった交流の場を作り、職場の状況や悩んでいることを共有できることを伝え、組合の良さを新採用職員へアピールした。後半の12日、13日は既に支部の昼食歓迎会でDVDを視聴している職員もいたため、実際に昨年度青年婦人部で活動した内容を

現業評新体制スタート

議長・工藤明彦さん 事務局長・中嶋利雄さん

県職労現業評議会2022年度役員選挙は3月24日

に投票が行われ、25日に開票を行った結果、立候補者



工藤 明彦 議長



中嶋 利雄 事務局長

全員が信任された。4月から工藤新議長を先頭に新体制で活動をスタート。昨年の確定闘争から引き続き人員・賃金課題などを柱に県職労本部と連携し、その改善に全力を挙げている。

新役員は次の通り。

議長

工藤 明彦(畜産研究分会)

副議長

小原 清一(秘書課分会)

菅原 薫(畜産研究分会)

事務局長

中嶋 利雄(管財課分会)

事務局次長

廣田 裕誠(畜産研究分会)

幹事

菊池 勉(管財課分会)

妻神 大己(畜産研究分会)

藤根 栄(県立農業大学校)

及川 政信(岩手県畜産研究会)

石橋 勝男(岩手県畜産研究会)

県職連合第32回 定期大会  
県職労第128回  
日時 2022年6月4日(土) 13時  
場所 盛岡市「勤労福祉会館」

詳しく説明し、職場の人間関係や労働環境等に問題があった時の相談先について新採用職員へ問いかけを行い、労働組合が問題解決に動いてくれる組織であることとを伝えた。アンケートの記入時間には青婦部員が新採用職員とフランクに話をしている姿も見られた。新採用職員からのアンケートでは「年齢・性別関係なく横のつながりが得られることが良いなと思った」との感想や「具体的な解決事例があれば教えてほしい」との声も聞かれたため、個別に対応していくこととした。本採用前に、より多くの新採用職員に再び説明の機会を設けるため、本部からも支部単位で新採用職員の働き方に関してフリートークする機会を行うよう提起する。

各支部で新採用職員歓迎昼食会

更なるアプローチで新採用を 自信を持って声掛けを

4月15日から20日にかけて4支部(宮古・釜石・気仙・盛岡)で新採用職員歓迎昼食会を開催した。



▲釜石支部での新採用歓迎昼食会の様子



▲気仙支部での新採用歓迎昼食会の様子



▲盛岡支部での新採用歓迎昼食会の様子

各支部では、2022年新採用加入促進DVDのほか過年度の加入促進DVD等を活用し、これまでの取組

成果や共済の良さについて説明がされた。また、先輩組合員から「組合員だけが使える人事異動対策カードは、組合を通して直接人事課へ希望を伝えることができ、実際に希望通りになった」等、組合に加入して良かったことの発言がされた。参加した新採用職員から「民間の保険会社に

加入しているの、マイカー共済に興味があり、今の掛金との差額を知りたい」や「組合に加入した際の楽しい活動やお得な情報を知ることができた」等の感想をいただいた。また、加入届の提出もあり、各会ともなごやかに終わった。今回の新採用職員歓迎昼食会を通して多くの新採用職員が共済関係に興味を持つていくことがわかった。今後、新採用職員が気になる事や興味があることに着目し、本部・支部で学習会や交流会を開催するなど、継続して声を掛け更に加入者が増えるよう全力で取り組む。

宮古市議会議員選挙 「竹花くみひこ」トップ当選  
4月17日告示・4月24日投票の宮古市議選(定数22人、立候補者23人)で、県職労推薦候補の「竹花くみひこ」(70歳・現5期・立憲民主党)さんは、2,087票を獲得し、トップ当選を果たしました。  
竹花くみひこさんは、6期目を迎えるに当たり「コロナ禍の選挙戦で、展開がなかなか読めなかったものの、訪問先で多くの方から声援をいただいた。皆さん期待に添える活動を進めると改めて決意した。」

第五世代  
岩手県出身の日本プロ野球千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手が、4月10日の試合で28年ぶり史上16人目となる完全試合を達成した。さらに毎回奪三振による達成は史上初、1試合19奪三振はプロ野球記録に並ぶ快挙だ▼日本中、世界中から祝福されていることをとても嬉しく感じる。佐々木選手は、記録達成の次の試合も8回までパーフェクトピッチングを続け、8回で降板した。監督やチームが選手を大事にする姿勢は日本中、世界中の人に共感されることに心が温かくなる▼本県出身の後藤新平氏は常々「一人二人に三人」と言い、この世を作っていくのは人であるとの考えから優秀な人材を作り生かしていくことに尽力し、「金を残して死ぬのは下だ。事業を残して死ぬのは中だ。人を残して死ぬのが上だ」と言葉を残した。現代日本に「人を育てる」が繋がっていると感じる▼短期的な成果を求める人の中には、大学の講座で「生娘をシャブ漬け戦略」と説明し、日本中から非難された▼私たちの仕事はコロナ禍の対応に追われているが、先人に学び「人を大事に」する体制をみ込んで進めていこうではありませんか。

